

文部科学省科学研究費補助金事業基盤研究(A) (研究代表者:涌水理恵)
障害児をケアする家族のエンパワメントを促進するリモートケアシステムの構築と検証
2023年6月10日(土) 10:00~12:00 オンライン

病気・障がいのある子ども**の父親**の子育て

北海道大学大学院保健科学研究所 創成看護学分野

一般社団法人日本ケアラー連盟

松澤 明美



1. 養育者としての男性が期待される背景



養育者としての男性

近年、養育者としての男性に、社会の期待や要請が高まっている

1999年 男女共同参画基本法

2010年 厚生労働省イクメンプロジェクト

2022年10月 男性育休に関する法改正

産後パパ育休（出生時育児休業）

育児休業の分割取得

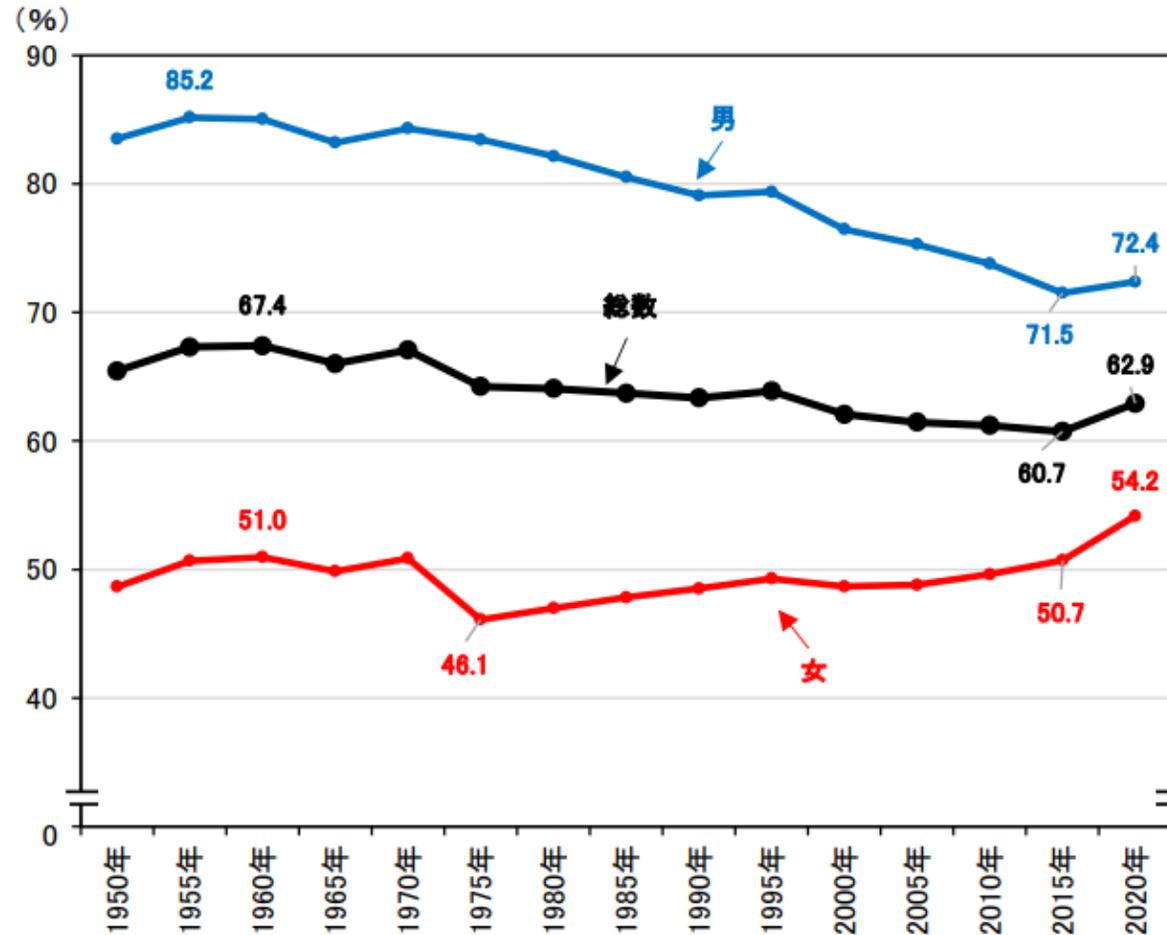
2020年 第5次男女共同参画基本計画

女性の社会進出・活躍への期待



女性の労働力の推移

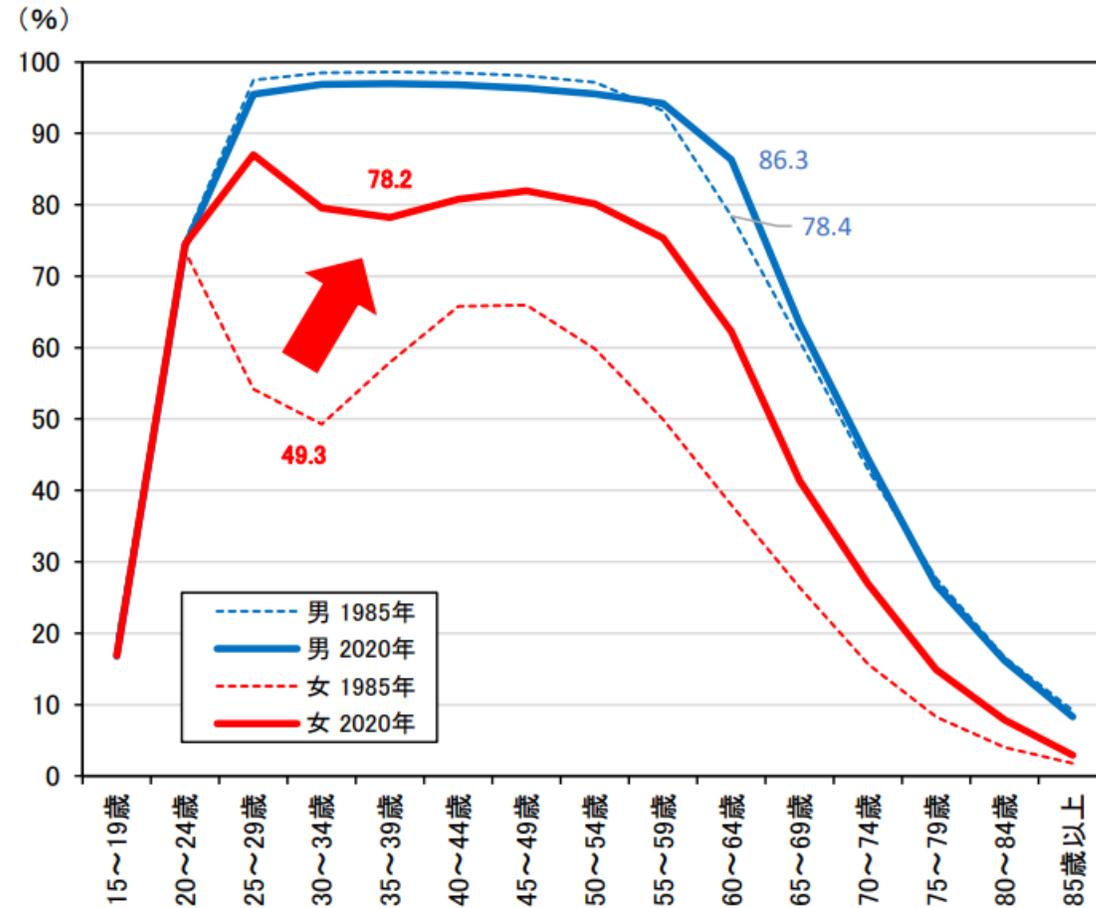
図1 15歳以上人口の労働力率の推移（1950年～2020年）



永井恵子(2022)台形へと近づきつつある「M字カーブ」の状況～令和2年国勢調査 就業状態等基本集計の結果から～
統計 Today 184

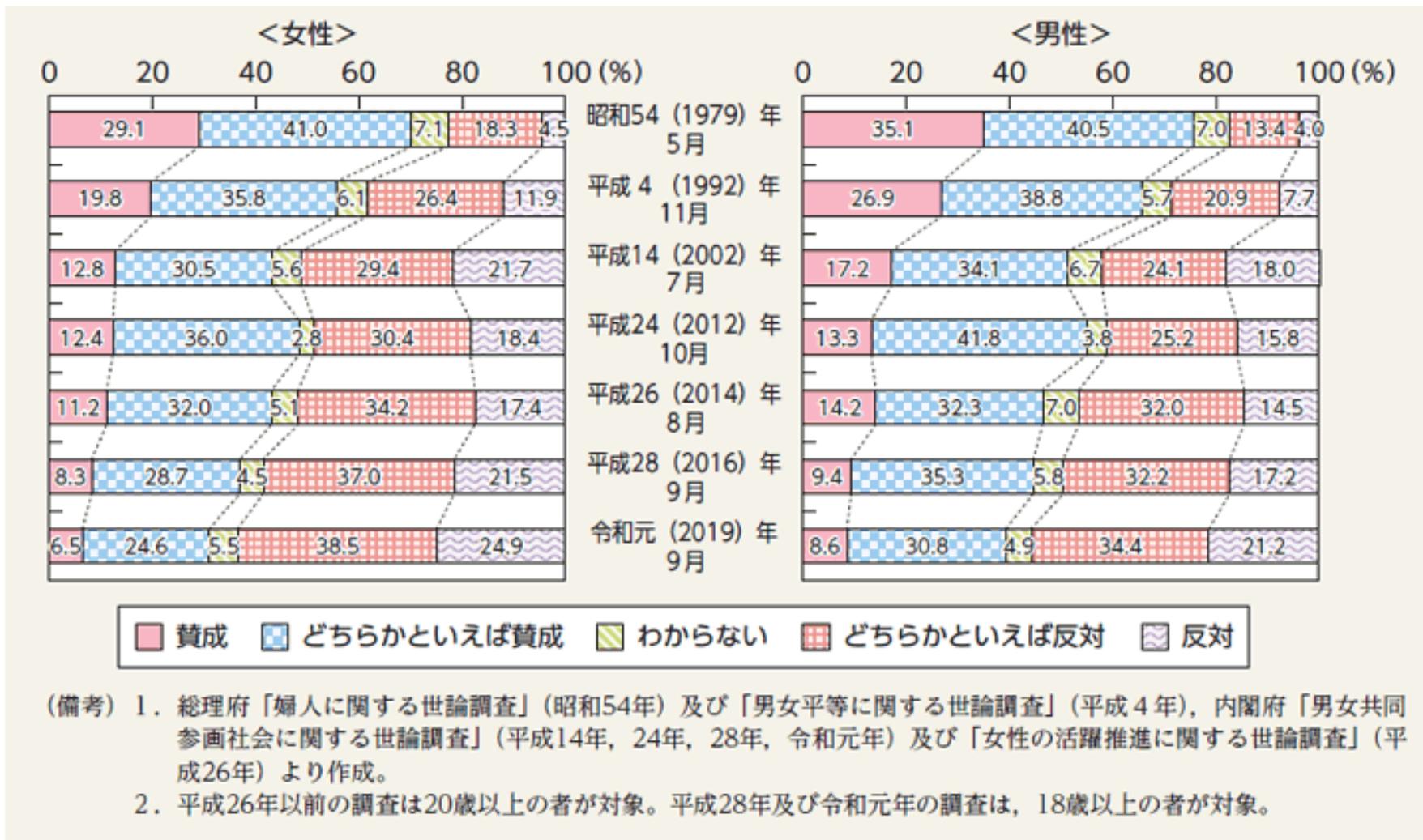
育児期女性の労働力の変化

図2 男女、年齢階級別の労働力率（1985年、2020年）



注) 2020年は不詳補完値による。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に関する意識の変化



父親の育児休業制度の改正

[令和4年4月1日より順次施行]

法改正により、男性の育休が取りやすくなります。

	New! 産後パパ育休 (出生時育児休業制度)	+	現行育休制度
対象期間・取得可能日数	子の出生後8週間以内に4週間まで		原則子が1歳(最長2歳)まで
申出期限	原則休業の2週間前まで		原則1か月前まで
分割取得	分割して2回取得可能		原則分割不可(今回の改正で2回まで取得可能)
休業中の就業	育児休業中の就業可能(労使協定・個別の合意が必要)		原則就業不可

現行育休制度とは別に取得可能

※産後パパ育休は、令和4年10月1日施行です。

企業や地域のイクメン・イクボス推進策も公開中! イクメンプロジェクトサイト | ikumen-project.mhlw.go.jp



取るでしょ、育休。



[令和4年4月1日より順次施行]

法改正により、男性の育休が取りやすくなります。

	New! 産後パパ育休 (出生時育児休業制度)	+	現行育休制度
対象期間・取得可能日数	子の出生後8週間以内に4週間まで		原則子が1歳(最長2歳)まで
申出期限	原則休業の2週間前まで		原則1か月前まで
分割取得	分割して2回取得可能		原則分割不可(今回の改正で2回まで取得可能)
休業中の就業	育児休業中の就業可能(労使協定・個別の合意が必要)		原則就業不可

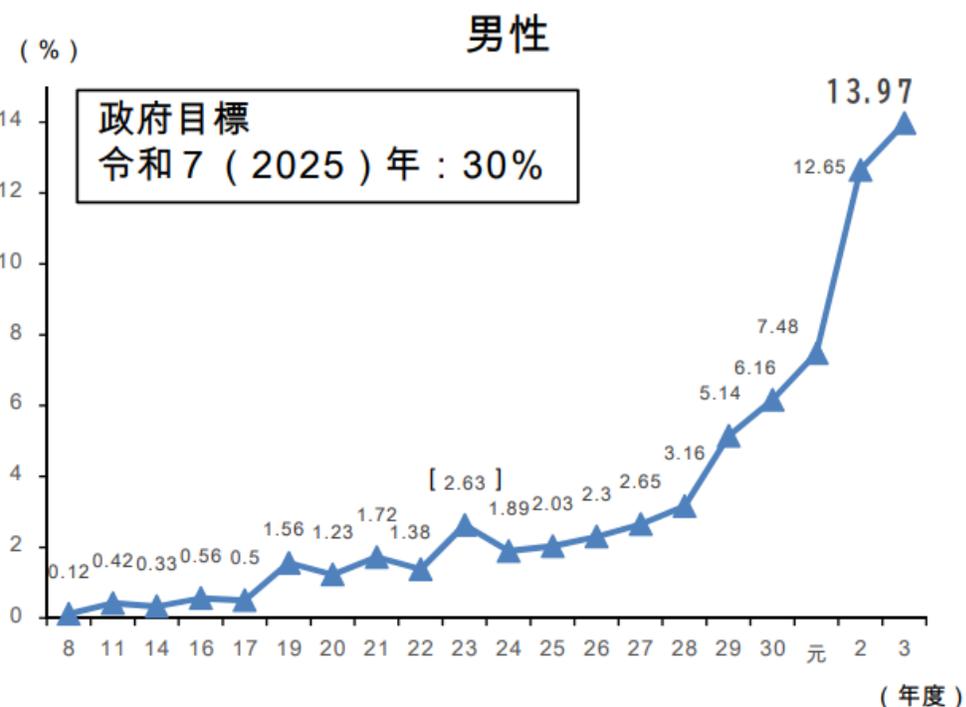
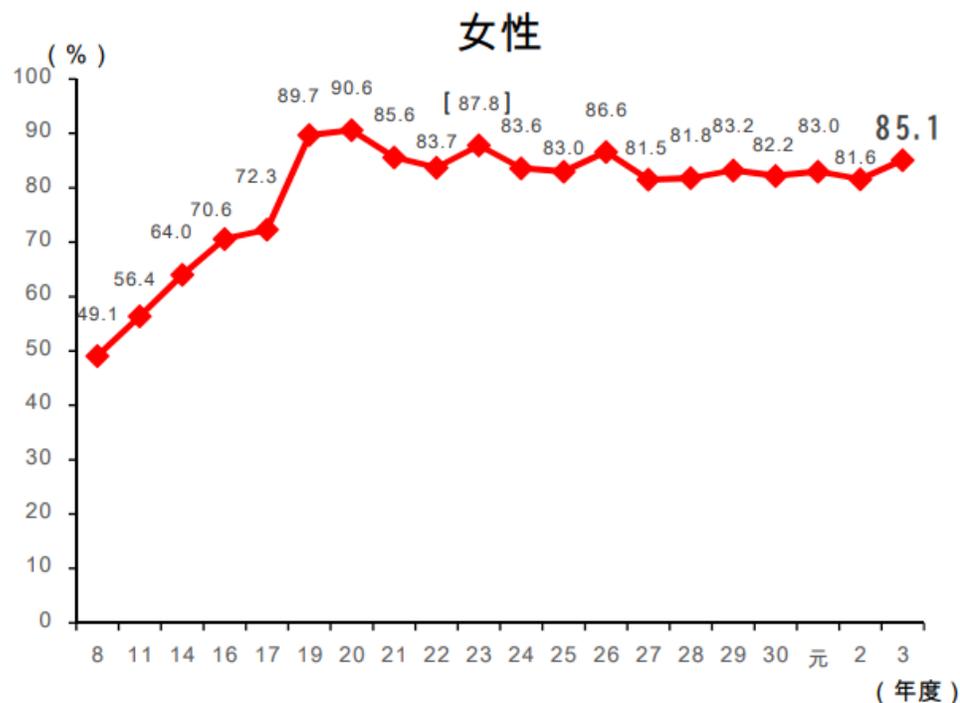
※産後パパ育休は、令和4年10月1日施行です。

企業や地域のイクメン・イクボス推進策も公開中! イクメンプロジェクトサイト | ikumen-project.mhlw.go.jp



育児休業取得率の推移

○ 育児休業取得率は、女性は8割台で推移している一方、男性は上昇傾向にあるものの女性に比べ低い水準となっている（令和3年度：13.97%）。



育児休業取得率 = $\frac{\text{出産者のうち、調査年の10月1日までに育児休業を開始した者（開始予定の申出をしている者を含む。）の数}}{\text{調査前年の9月30日までの1年間（※）の出産者（男性の場合は配偶者が出産した者）の数}}$

(※) 平成22年度以前調査においては、調査前年度の1年間。

(注) 平成23年度の[]内の割合は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

育児休業取得期間

○ 育児休業の取得期間は、女性は9割以上が6か月以上となっている一方、男性は約5割が2週間未満となっており、依然として短期間の取得が中心となっているが、男性の「1か月～3か月未満」の取得は24.5%で、3番目に多い取得期間となっている。

【女性】

	5日未満	5日～	2週間～	1月～	3月～	6月～	8月～	10月～	12月～	18月～	24月～	36月～
平成27年度	0.8	0.3	0.6	2.2	7.8	10.2	12.7	31.1	27.6	4.0	2.0	0.6
平成30年度	0.5	0.3	0.1	2.8	7.0	8.8	10.9	31.3	29.8	4.8	3.3	0.5
令和3年度	0.5	0.0	0.1	0.8	3.5	6.4	8.7	30.0	34.0	11.1	4.5	0.6

【男性】

	5日未満	5日～	2週間～	1月～	3月～	6月～	8月～	10月～	12月～	18月～	24月～	36月～
平成27年度	56.9	17.8	8.4	12.1	1.6	0.2	0.7	0.1	2.0	0.0	-	-
平成30年度	36.3	35.1	9.6	11.9	3.0	0.9	0.4	0.9	1.7	-	0.1	-
令和3年度	25.0	26.5	13.2	24.5	5.1	1.9	1.1	1.4	0.9	0.0	0.2	-

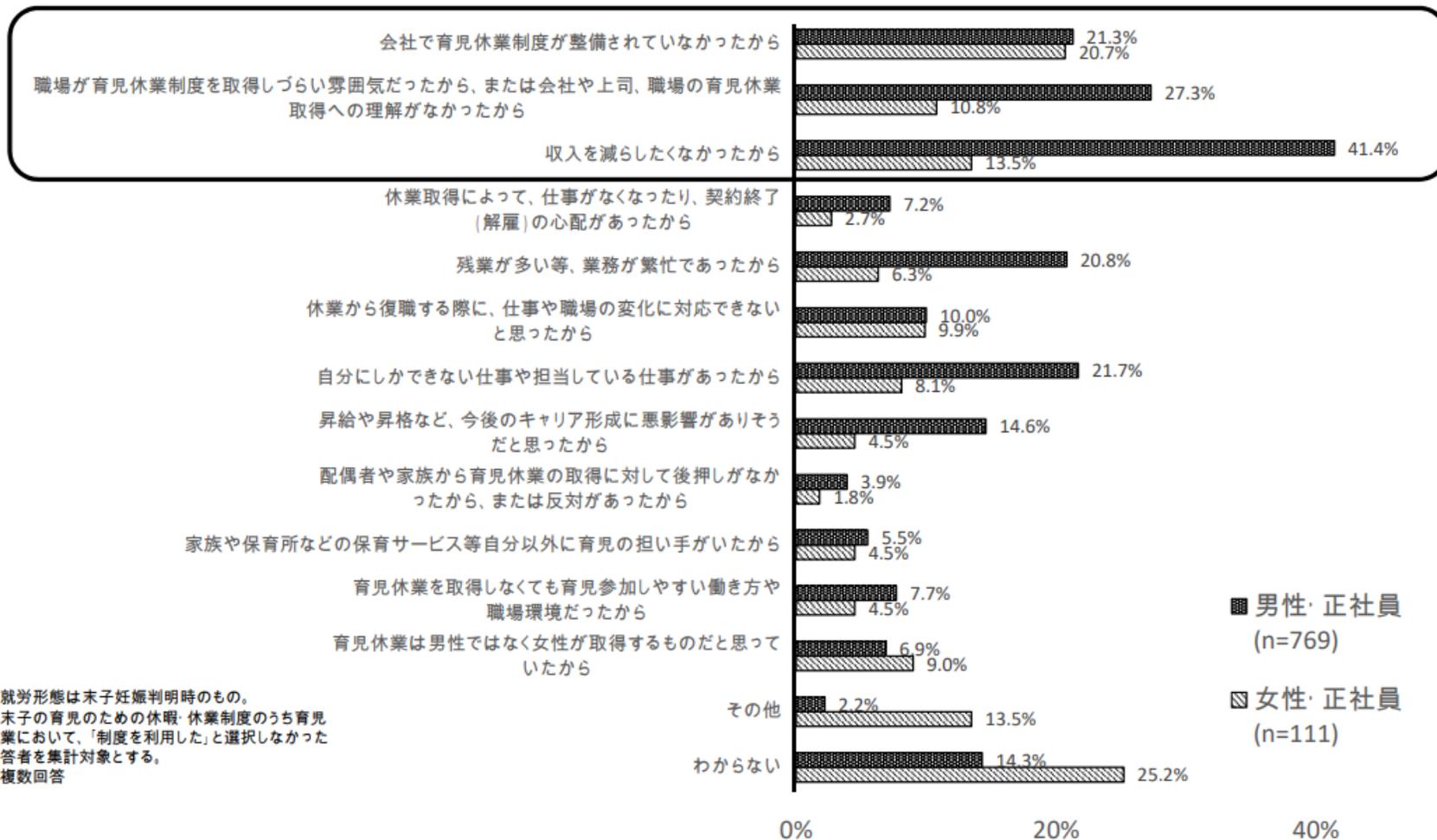
↑
6月以上が95.3%

↑
2週間未満が51.5%

※ 調査対象：各事業所で調査前年度1年間に育児休業を終了し、復職した者
資料出所：厚生労働省「雇用均等基本調査」

育児休業制度を利用しなかった理由

○ 「男性・正社員」について、育児休業制度を利用しなかった理由をみると、「収入を減らしたくなかったから」、「職場が育児休業制度を取得しづらい雰囲気だったから、または会社や上司、職場の育児休業取得への理解がなかったから」、「自分にしかできない仕事や担当している仕事があったから」が多くなっている。

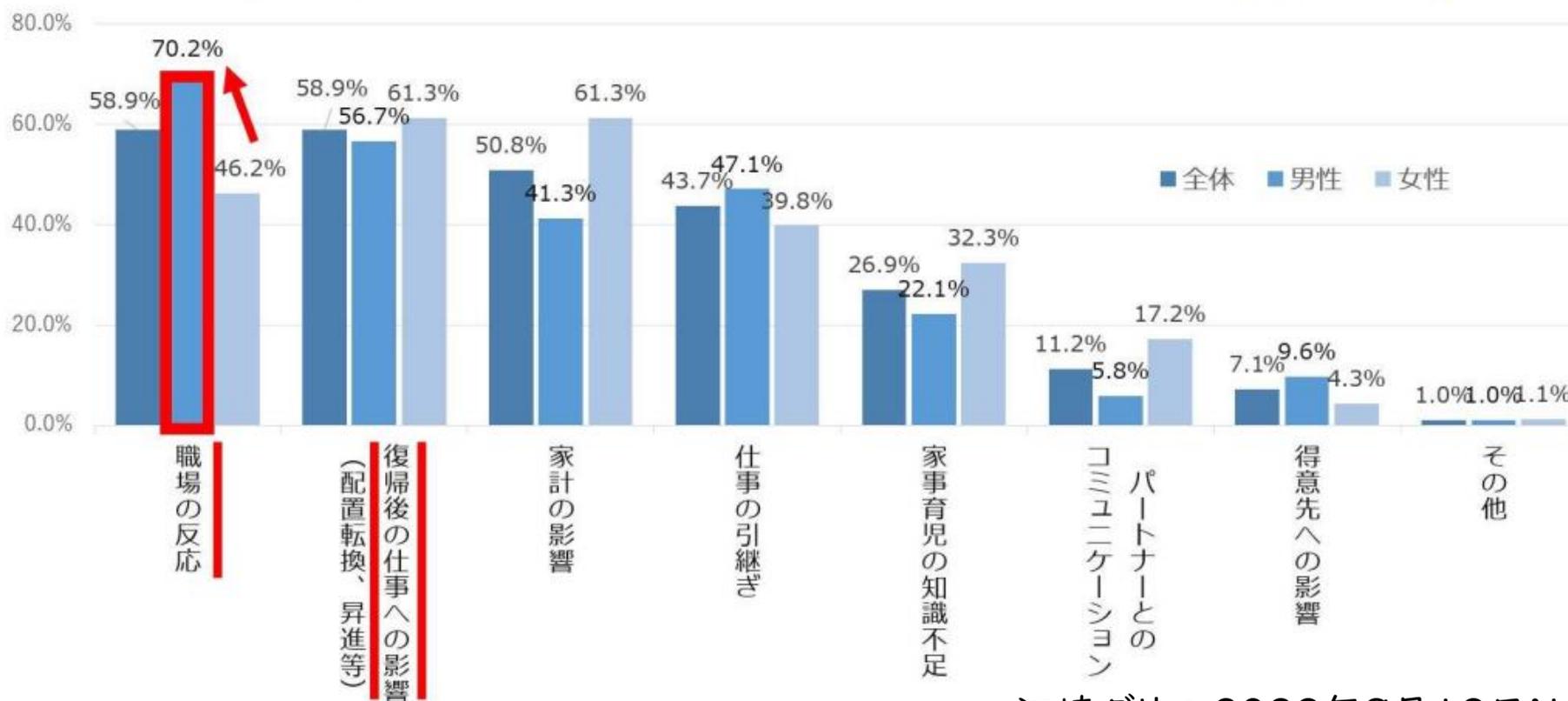


※就労形態は末子妊娠判明時のもの。
 ※末子の育児のための休暇・休業制度のうち育児休業において、「制度を利用した」と選択しなかった回答者を集計対象とする。
 ※複数回答

育休取得前に不安だったこと

- 育休を取得した経験者及び今後取得予定の男女 400 名に「男性育休」に関する意識調査

Q5. (Q4で不安と回答) 具体的にどのような不安がありましたか？(いくつでも) (n=197)



2. 病気・障がいのある子どもへの父親の子育て



子どもに病気・障がいがある場合の子育て

- 子どもの障害受容
- 通常の子育ての行動に加えて、子どもの状態・特徴に伴って、観察・判断それに基づくケアが必要
- 物理的に子育てにより時間が必要
- 養育者の心身の負担がある
- 養育者の就労や余暇など、社会参加が難しい
- 他の家族員も、健康への影響、社会生活への制限を受ける

子どもに病気・障がいがない場合とは、異なる子育ての状況

父親の育児参加とは

Lamb (1986)によれば、父親の育児参加には3要素ある

- Engagement (直接に育児に関わること)
ごはんを食べさせる、庭でキャッチボールをするなど
- Accessibility (育児していなくても子どものそばにいること)
親は台所にいて、子どもは隣の部屋で遊んでいるなど
- Responsibility (子どもの養育に責任をもつこと)
子どもが病気のとときに病院を予約したり、服を着せるなど

父親の育児参加測定尺度

子どもに特有の状態や特徴にあわせた観察・判断・ケアが必要

	毎日・毎回		3-4回/週		1-2回/週		1-2回/月		していない		有効回答
	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	n	(%)	
子どもと一緒に室内で遊ぶ	116	(33.6)	103	(29.9)	114	(33.0)	11	(3.2)	1	(0.3)	345
子どもに絵本を読み聞かせる	29	(8.4)	43	(12.5)	119	(34.6)	96	(27.9)	57	(16.6)	344
子どもと一緒に外で遊ぶ	7	(2.1)	22	(6.7)	219	(67.2)	65	(19.9)	13	(4.0)	326
子どもを寝かしつける	65	(19.0)	54	(15.7)	83	(24.2)	60	(17.5)	81	(23.6)	343
子どもを風呂に入れる	95	(27.5)	88	(25.5)	117	(33.9)	34	(9.9)	11	(3.2)	345
子どもに食事をさせる	88	(26.2)	60	(17.9)	104	(31.0)	40	(11.9)	44	(13.1)	336
子どもの下着等を替える	77	(22.4)	92	(26.8)	90	(26.2)	39	(11.4)	45	(13.1)	343
子どもをあやす	137	(40.2)	86	(25.2)	64	(18.8)	16	(4.7)	38	(11.1)	341
保育所や幼稚園の送り迎えをする	62	(21.5)	7	(2.4)	11	(3.8)	34	(11.8)	175	(60.6)	289
看病をする／病院に連れて行く	66	(21.0)	4	(1.3)	13	(4.1)	158	(50.2)	74	(23.5)	315

父親の育児関与尺度

支持 ($\alpha = .894$)

- 子どもが不安がっているとき安心させる
- 子どもが泣いているとき慰める
- 子どもが悩んでいたたり辛そうなそぶりをみせるときは寄り添う
- 子どもが混乱状態にあるときは丁寧に関わって落ちつかせ何が問題なのか話をきく
- 子どもが困難なことを成し遂げるよう励ます

交流 ($\alpha = .824$)

- 子どもがしたいことで一緒に時間を過ごす
- 子どもたちが話したいことがあるときじっくり話をする
- 子どもにさまざまな運動に触れさせる
- 子どもを公園に連れて行く
- 子どものテレビ番組を一緒に見る
- 子どもが好きな音楽を一緒に聴く
- 子どもの教育に良いゲームやおもちゃを家にもって帰る
- 子どもをピクニックに連れて行く

家事 ($\alpha = .856$)

- 洗濯物をたたむ
- 洗濯をする
- 家の掃除をする
- 食事の後片付けをする
- トイレの掃除をする
- ゴミ出しをする
- お風呂そうじをする
- 食材の買い物に行く
- 食事を用意する

しつけ ($\alpha = .832$)

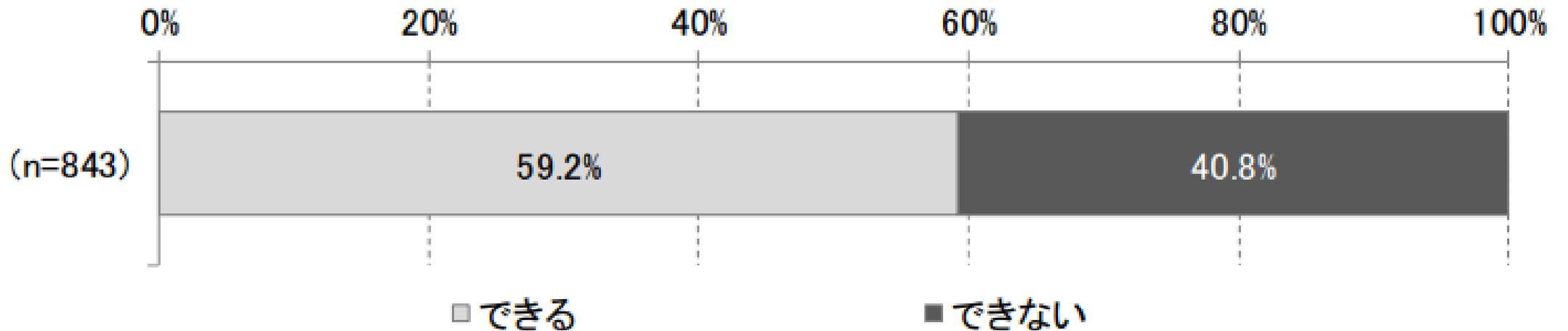
- 子どもに食事のマナーを教える
- 子どもが大騒ぎをしたら注意する
- 子どもにおもちゃの後片付けをさせる
- 子どもにしてはいけないことのルールを教える
- 子どもが言うことを聞かなかったら叱る
- 子どもに自分がすることに責任をもつよう教える
- 子どもに家の手伝いをするようにいう

世話 ($\alpha = .807$)

- 子どもの入浴の世話をする
- 子どもの洗顔や洗髪の手伝いをする
- 子どもを夜寝かしつける

医療的ケア児者のいる家族の暮らし

図表 52 医療的ケア児者から、5分以上目を離せるか



子どもが必要なケアによって、物理的な時間が制限

重症心身障がいのある子どもの母親の就労

重症心身障がいのある6~18歳の子どもの母親1501人を対象
就労している母親 41.1% うち、フルタイムは27.9%

変数	n	(%)
就労状況		
フルタイム	419	(27.9)
パートタイム・アルバイト・自営業	198	(13.2)
専業主婦 (学生含む)	884	(58.9)
就労の有無		
就労	617	(41.1)
非就労	884	(58.9)

重症心身障がいのある子どもの母親の就労

障がいのある学齢期の子どもを母親1501人を対象

就労の有無をアウトカムとした多重ロジスティック回帰分析

子どもの重症度・母親の精神的健康度・祖父母の同居・サービス利用・
家族機能(きずな)が関連

変数	β	Wald χ^2 値	p 値	オッズ比	95%信頼区間
子どもの年齢	0.049	3.745	0.053	1.050	0.999~1.104
子どもの重症度	-0.071	23.031	0.000 **	0.932	0.904~0.958
身体的健康度 (PCS) : 母親の健康関連 QOL	0.015	1.927	0.165	1.015	0.994~1.038
精神的健康度 (MCS) : 母親の健康関連 QOL	0.025	4.738	0.030 *	1.025	1.003~1.049
祖父母の同居 (同居 = 1)	0.769	12.346	0.000 **	2.157	1.407~3.322
かじとり : 家族機能	0.065	2.597	0.107	1.067	0.986~1.155
きずな : 家族機能	0.065	5.391	0.020 *	1.067	1.011~1.128
サービス利用 (通所・訪問) 時間	0.065	31.667	0.000 **	1.067	1.044~1.092

Hosmer and Lemeshow 適合度検定 χ^2 値 = 12.644, p = 0.125

* p < 0.05, ** p < 0.01

障がいのある子どもの父親の健康

- 二分脊椎症の子どもの父親と母親の抑うつと比較では、母親の方が高値であるが、他の研究と比べ、双方が高い（古城・福丸, 2015）
- 自閉症スペクトラム幼児の父親は、健常児や軽症てんかん治療児の父親と比較し、抑うつと不安が高い（野村, 2016）
- 国民生活基礎調査（2016年度）を用いた、障がいのある子どもの父親は、障がいのない子どもの父親と比べて、心理的苦痛が高く、主観的健康状態が低い（Dhungel, 2021）

父親も健康状態、特に精神的健康、主観的健康度が低い

父親の育児参加の母親への影響

- 父親が積極的に育児参加している場合、母親の育児幸福度や育児満足感が高い（明野ら, 2010）
- 父親の育児参加は、父親の情緒的サポートに関する母親の認知を通じて、間接的に母親の夫婦関係満足度へ、精神的健康度を通じて、健康関連QOLに影響（桐野ら, 2011）
- 母親は父親からのサポートがあることで、抑うつが軽減され、育児への意欲が高まる（松岡・竹内, 2002）

父親の育児参加は、母親の健康やQOL、満足度に影響する

父親の育児参加の関連要因

仮説	育児参加の関連要因	文献
時間的余裕仮説	父親の就労・通勤時間が短い 母親が就労している	久保,2017 高瀬,2022
家庭内需要仮説	子どもの数が多い 末子の年齢が低い場合	松田,2006
相対的資源仮説	伝統的な性別役割分業意識 学歴や収入などの資源を多くもつ方が子育てへの参加割合が低くなる	北原,2015
代替資源仮説	同居の祖父母など父親に代わる家事や育児の担い手がいると、父親の参加は低くなる	尹,2010
夫婦関係満足感説	夫婦関係が良好であれば夫の子育て参加が高まる	瀧本,2019

父親が子育てするためには

- 父親の育児支援行動促進のための働きかけや、政策検討には、父親が仕事と家庭をどのように両立し、その影響を本人が肯定的にとらえているかどうかを考慮する必要（成瀬ら，2009）
- 父親の育児参加には、置かれている環境や価値観等の個別性が関係（多喜代・北宮，2019）

病気・障がいのある子どもの父親は、

どのように子育てしたいと考えているのだろうか？

⇒ 子育てにおける価値観≡子育て観 (Child-Rearing Values)

病気・障がいのある子どもの親の子育て観を測る

価値とは

行動の動機づけや評価、選択に影響をおよぼす理想や願望
(坂野, 2012)

子育て観とは

子どもを育てることに対する
個人の見解、価値観、認識、
印象、期待の総体
(陳ら, 2006)



現存する子育て観の測定尺度は、健康な子どもの親を対象

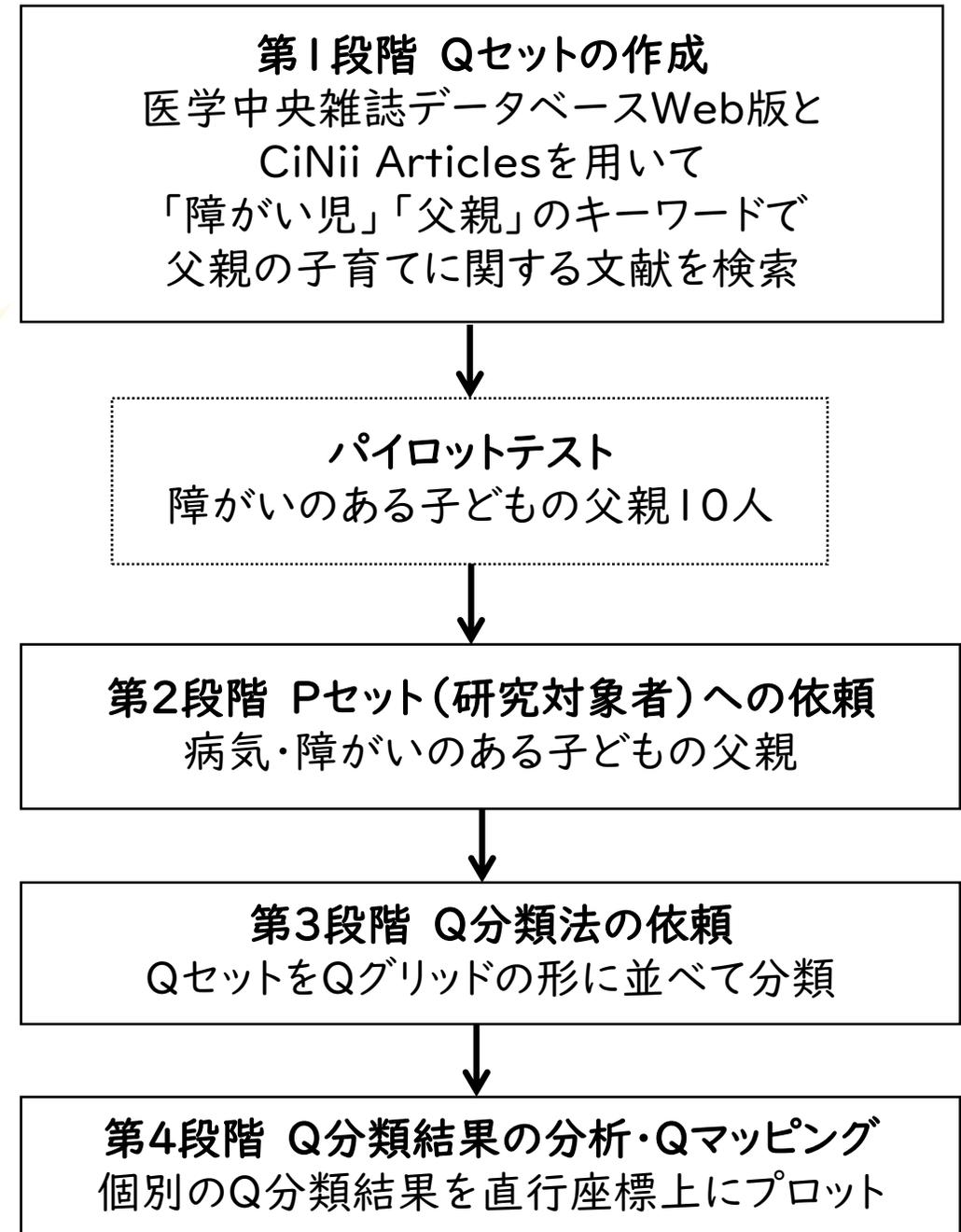
子育てに関する複数の価値を階層的・総体的な優先関係をもとに体系化した子育て観は、測定自体が難しい

従来の「子育て観」概念で、親の子育て観をとらえきれない可能性

Q方法論とは

- 質的・量的研究方法
(Quali-Quantitative Methods)
- 個人や組織の内面にある捉えづらい価値観などを定量的に測定する分析方法
(Watts S & Stenner P, 2012)

300文献から関連する70文献の全文を精読
父親の子育ての考え・認識にあたる記述を抽出
作成した445ステートメントを類型化し、抽出されたステートメントが網羅的になるよう47ステートメントを選択、研究者間で討議し、最終版を確定

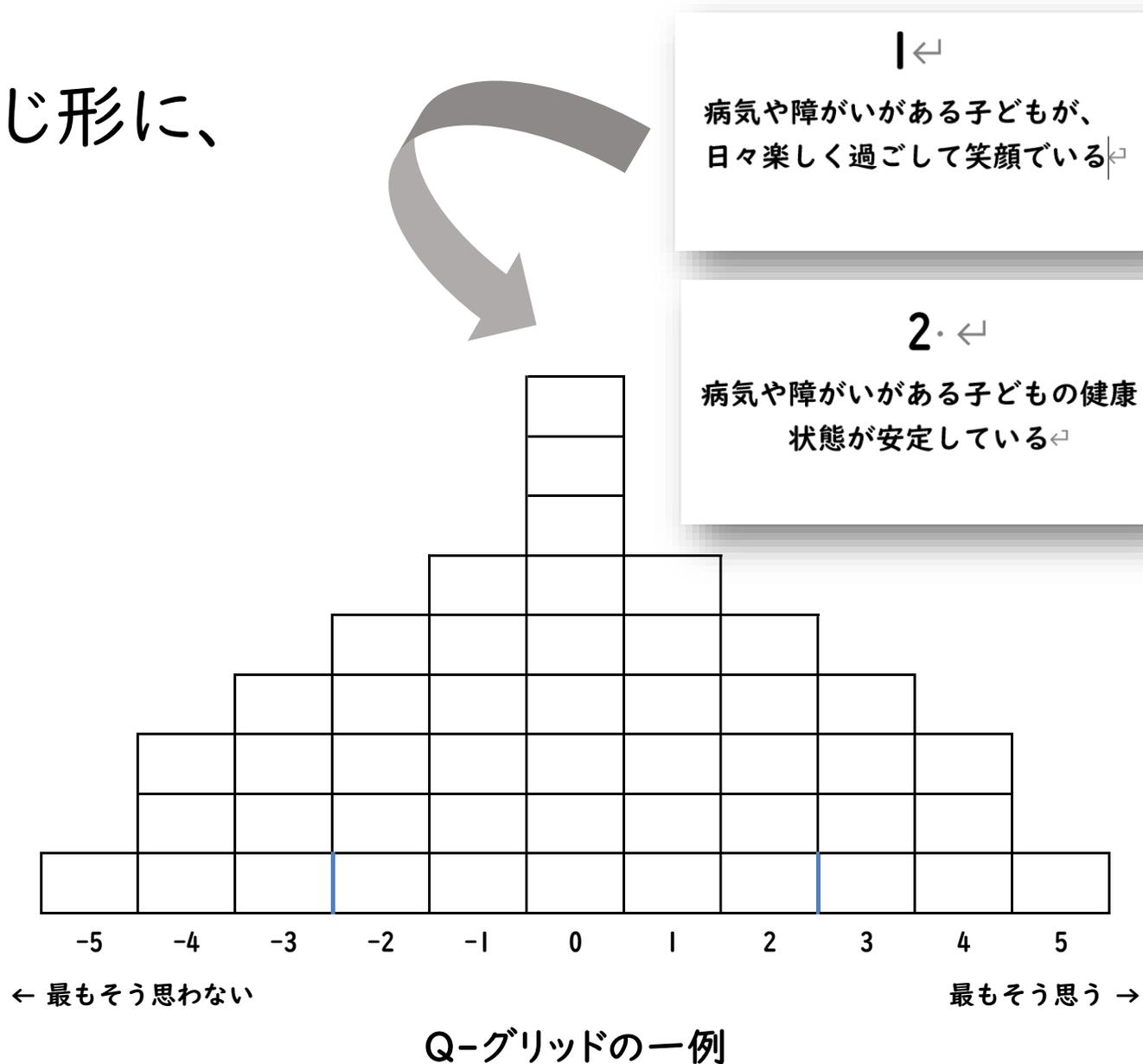


Q分類法とは

ステートメントをQ-グリッドと同じ形に、
同意する順に並べて数値化

Qステートメントの概要

- ・障がいのある子どものイメージ
- ・障がいのある子どもの子育て・役割
- ・子育てに伴う感情
- ・配偶者(母親)との関係
- ・家族との関係
- ・自分の仕事との関係・自身の生活
- ・障がいのある子どもへのサポート
- ・子育てにおける環境・社会



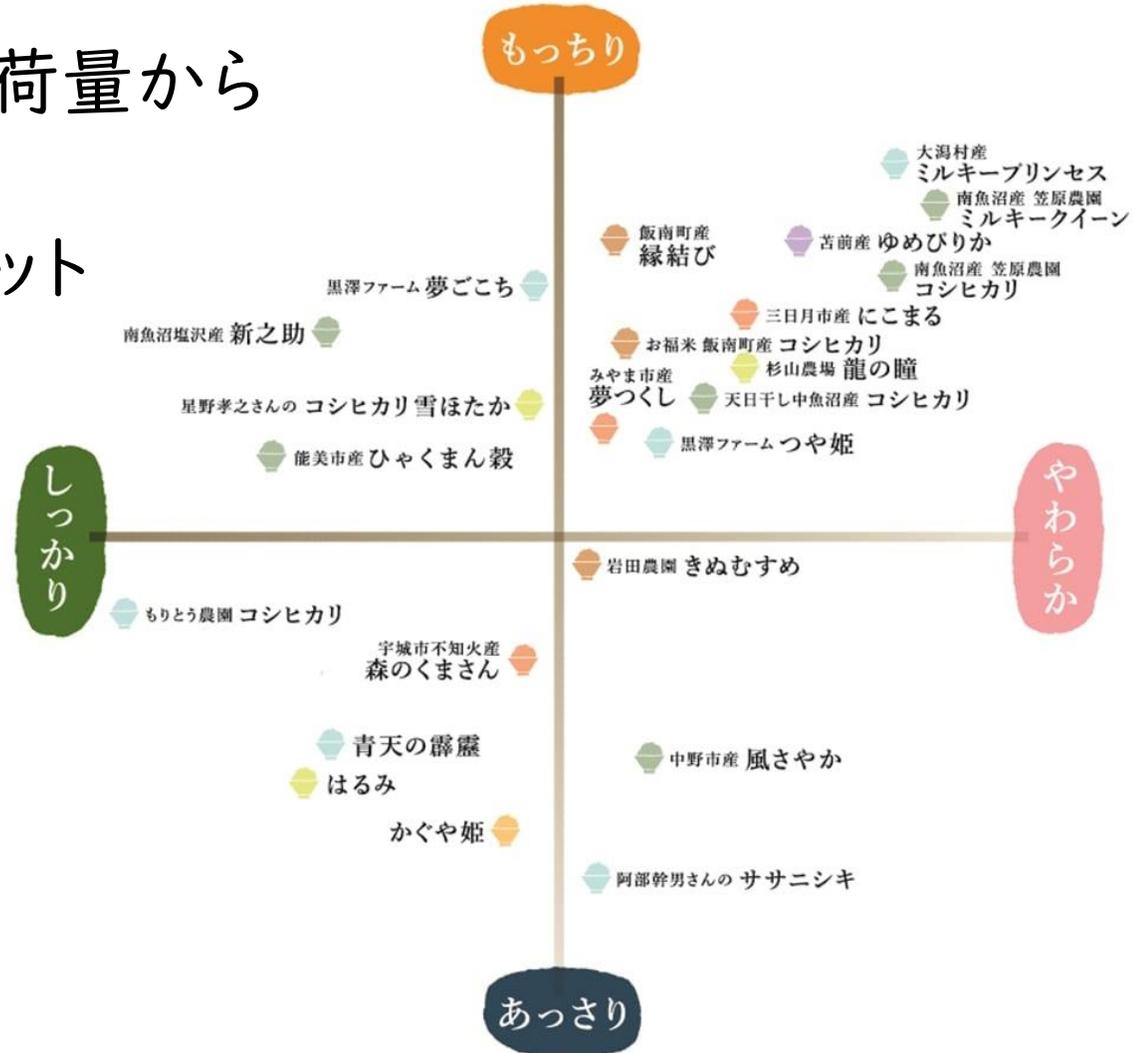
Q-グリッドの一例

実際のQ-グリッド: 父親



Qマッピングとは

- 因子分析・主成分分析を行う
- 第1・2主成分における正・負の主成分負荷量から4つ特徴を抽出
- 直交座標上に、個別のQ分類結果をプロット



Q方法論のものの見方：RとQのアプローチによる人間



- 25の身体部位をそれぞれ計測し、左の図は、結果をR因子分析して、部位間の相関を求めたもの
- 腕や足の長さや身長は相関
- 25の身体部位のどれを重視するかという観点で優先順位づけをした結果を示したもの
- 人は明らかに眼を最も重視

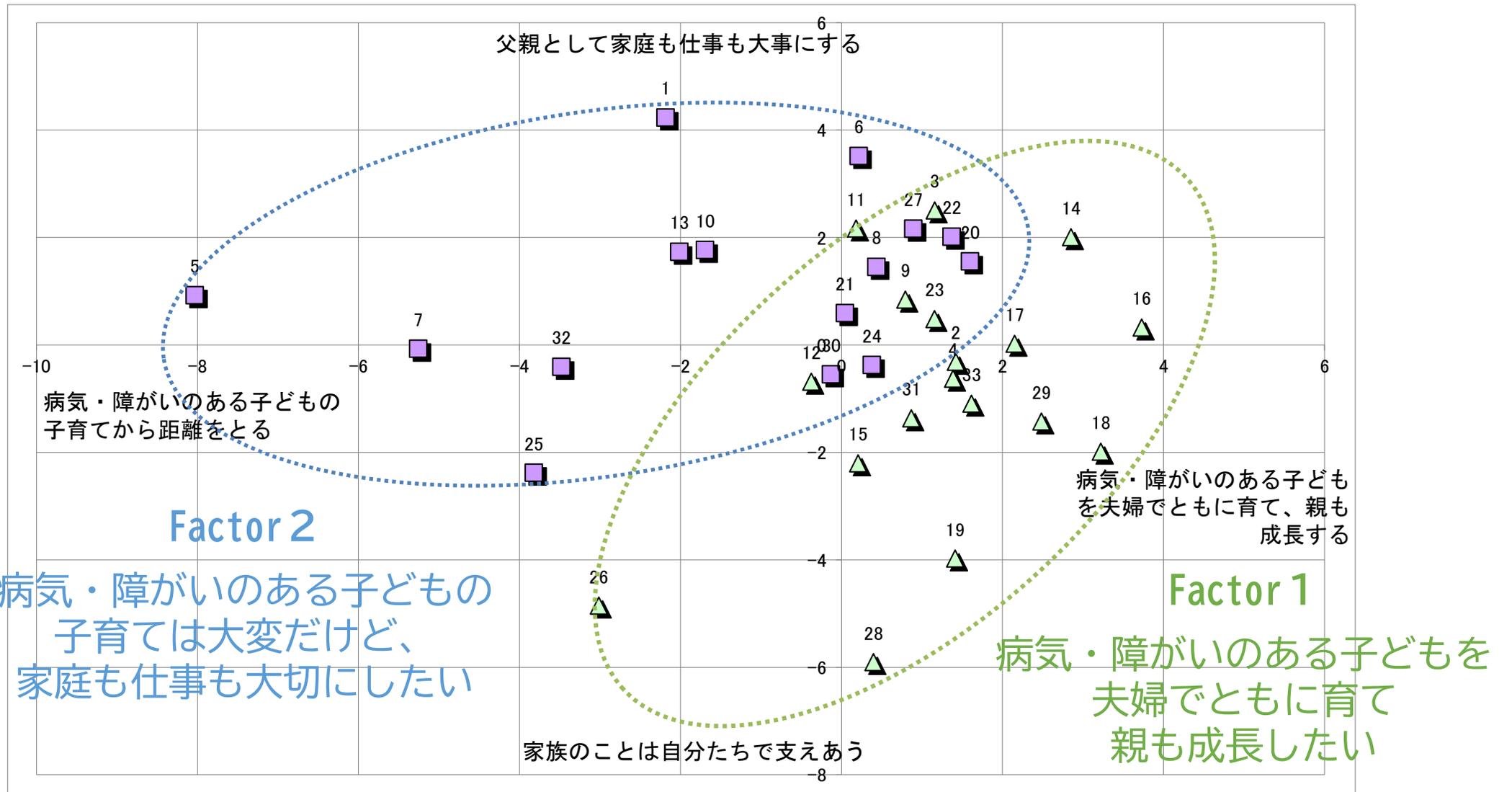


R方法論と異なり、Q方法論は特徴を主観的観点から強調づける

Q方法論の強みと活躍する場面

- 多様な価値観を多様のまま、また言葉にしにくいものを可視化する
- 当事者の内省と、それによる自身の気づきを促す
- 他者を知り、他者との違いのなかで、より自分を知り、理解する

場面	概要
熟議	多様な人々が関わり、もやっとしたテーマについて、いくつかの方向性をまとめる
多極化	専門家の中で議論が二極化しているときに、問題解決の糸口を見つける
優先順位付け	誰もが重要だと思っているがゆえに、優先順位がなかなかつかない課題を整理する
少数	意見を表明できる者が少ないテーマについての見解をまとめる
意匠によって 分化したニーズ	特に意匠が必要な商品開発において、ニーズごとにアイデアをまとめる



父親 33人 (20代1人・30代14人・40代13人・50代4人・60代1人)

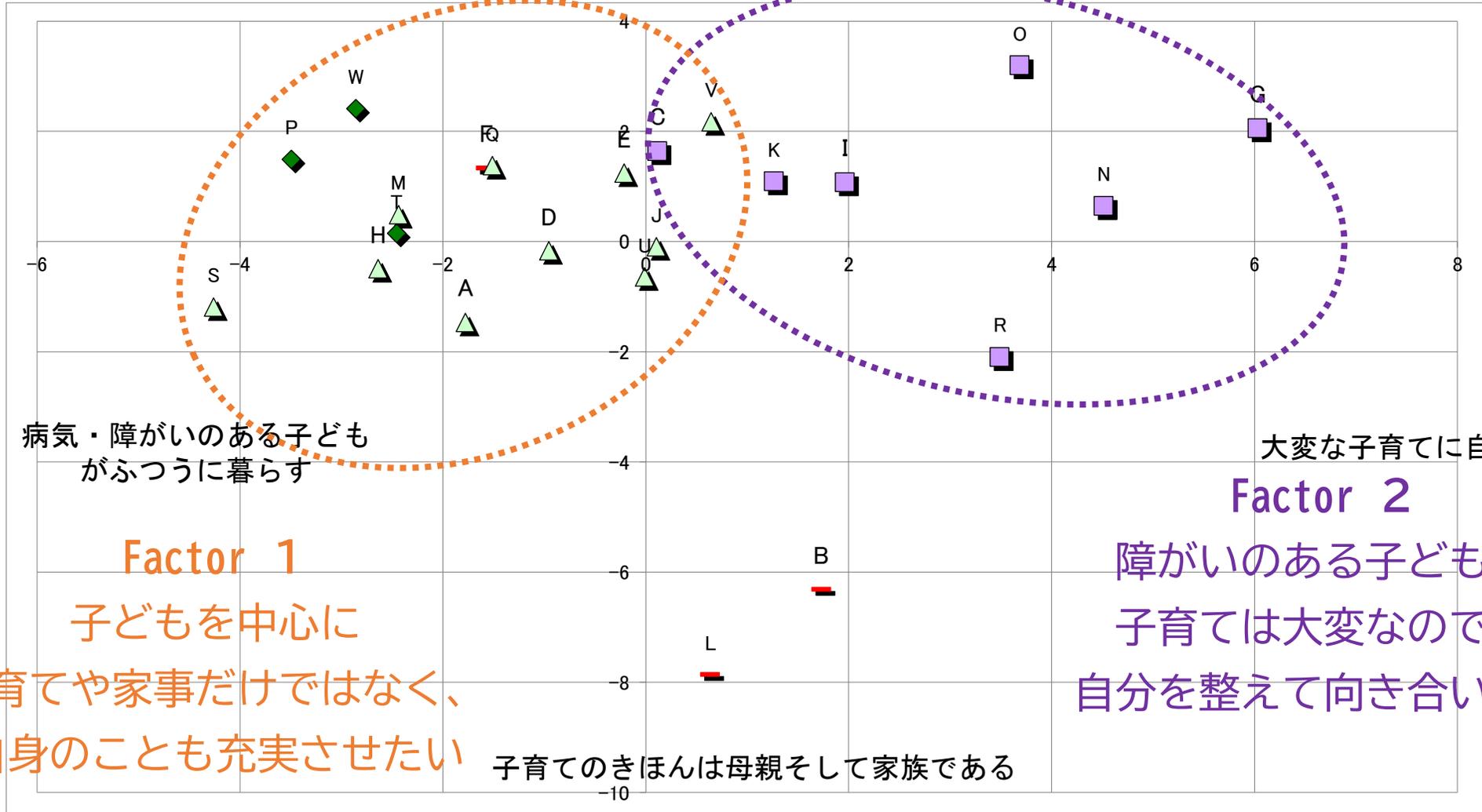
子の年齢 8.13歳 (範囲 2-23歳) 神経疾患 (脳性まひ・重症児・医療的ケア児など) 10人 発達障がい 7人

染色体異常 5人 血液疾患 (小児がんなど) 4人 知的障がい 3人 肢体不自由 2人 その他 (慢性疾患) 2人

3. 父親への支援に向けて



子育てや家事に加えて自分のやりたいこともしたい



病気・障がいのある子ども
がふつうに暮らす

子どもを中心に
子育てや家事だけではなく、
自身のことも充実させたい

大変な子育てに自ら向き合う

障がいのある子どもの
子育ては大変なので、
自分を整えて向き合いたい

母親 21人 (30代 7人・40代 10人・50代 4人)

子の平均年齢 9.7歳 (2-17歳) 脳性まひ 8人・神経疾患 7人・重症心身障がい 3人・発達障がい 2人・ダウン症 1人

病気・障がいのある子どもの親の子育て観



Factor 1

病気・障がいのある子どもを夫婦でともに育て、親も成長したい



Factor 2

病気・障がいのある子どもの子育ては大変だけど、家庭も仕事も大切にしたい



Factor 1

子どもを中心に子育てや家事だけではなく、自身のことも充実させたい



Factor 2

病気・障がいのある子どもの子育ては大変なので、自分を整えて向き合いたい

子育て観と実際の子育てとのギャップを埋める支援の必要性

家族システム理論からみた親の子育て観

家族システム理論とは、家族員一人ひとりを別々ではなく、家族全体を一つのユニットととらえ、その内外との相互作用に着目した考え方



母子サブシステムだけではなく、

夫婦サブシステム・父子サブシステムへ、より働きかける必要性